



埼玉県のマスコット コハトン

ライプ・レター
Lib. Letter

2011 Spring [3～5月]季刊

平成23年3月1日 通巻 第23号

編集・発行 埼玉県立熊谷図書館

<https://www.lib.pref.saitama.jp/> Tel 048-523-6291

奇書・偽書・禁書

—謎と不思議と悲劇の本たち—

この世に生まれた数多（あまた）の本たちの中で、その由来や評価、あるいは扱いにおいて数奇な運命を辿ってきた一群があります。世の中の不思議や色事を描いた「奇なる書物」、歴史を揺るがさんとする「偽りの書物」、そして時の統治者たちから厭われ排撃され「禁じられた書物」。

今回は、こうした「奇書」「偽書」および「禁書」に関して記された資料を集めてみました。



■「奇書」：「奇」なる本とは？

中国の「奇書」は、「稀に見る傑作」の意味で『三国志演義』『水滸伝』『西遊記』が「三大奇書」とされています。一方、日本でいう「奇書」の場合には、「奇妙」や「不思議」、あるいは「妖艶」といった意味合いがより強まるようです。

そんな日本的な発想の「奇書」は、奇談・伝奇は言うに及ばず、妖怪や怪力乱神、易占や仙術、さらには艶本にいたるまでと広範です。『今昔物語集』や『日本霊異記』『聊齋志異』『死海写本』なども、奇書の仲間に入ります。そうした日本的な定義で言う数多の「奇書」の中から、西洋・東洋・日本で見られる特徴的なものをいくつか選んでみました。

『諸世紀』

作者ミカエル・ノストラダムス（ミシェル・ド・ノートルダム）は、医師として活躍するとともに、占術師として4行詩を使った予言を多数残しました。その一つに1999年7月を指定した終末予言があったため、20世紀末に至るまで彼の予言は大いに世間を賑わしました。

●神秘主義・魔術・宗教（西洋）

かつて、仙術・魔術・宗教的儀式は特別な知識を極めた専門家によって限定的に伝承されるものでした。だからこそ、そうした知識を一般の目に曝した図書は「奇書」として珍重されたわけです。

西洋神秘主義に関する奇書としては、錬金術師として有名なパラケルススの著作をはじめ、アレイスター・クロウリーの『魔

術』や、解読不能とされる『ヴォイニッチ写本』『諸世紀』などがあります。



●道教・神仙思想（東洋）

東洋の奇書としては、儒教に追いやられた道教や神仙思想の資料が多く挙げられます。神仙になる方法を説く葛洪の『抱朴子』や古代中国の不思議な怪力乱神辞典である『山海経』などがあります。

『山海経（せんがいきょう）』

編著者も明確な成立年代も不明ですが、この中に描かれている現代では考えられない生き物たちや異形の人々・神々の姿は、見飽きることがありません。

『藐姑射秘言（はこやのひめごと）』

『阿奈遠可志（あなをかし）』『逸著聞集（いっちょもんじゅう）』とならんで「江戸三大奇書」の一つと呼ばれており、国文体（ひらがな）のみで記されています。

●奇談・艶本（日本）

日本の奇書としては、奇談集『耳囊（みみぶくろ）』や『雨月物語』などが有名ですが、やや艶色的なものとして『藐姑射秘言』（黒澤翁満）があります。

「奇書」と「希書」

「希書」は厳密には「希（まれ、「稀」とも）な書」、つまり入手が非常に困難な珍しい本のことを指します。「奇書」の中には入手困難なものも多く、同時に「希書」であるとも言えます。

『百万搭陀羅尼』や『ゲーテンベルク聖書』などが代表的な「希書」としてあげられます。



■「偽書」：偽りの権威

「偽書」が編まれる最も大きな動機の一つに「権威づけ」があります。ある著名人あるいはその著作・思想にあやかり、自分の意図した内容を流布させようとするものです。

「偽書」の定義は簡単ですが、その認定は簡単ではありません。ここでいう「偽書」とは、「ある意図のもとに虚偽的内容を真実めかして記述した本」（世界大百科事典）と定義されますが、ある本の内容が「偽り」であるかどうかを判別するのはとても難しいことです。



●中国

晋の時代に道士の王浮によって仏陀を老子の弟子とする『老子化胡経（ろうしかこきょう）』という偽経が作成されたのに対し、仏教徒側も老子を仏弟子とする『老子大権菩薩経』を偽作しています。こうした争いは唐に至るまで続き、668年に唐の高宗が宮中で『老子化胡経』の真偽について対決させました。このためこの経は最終的に仏教徒側が勝利し、『老子化胡経』は焼却を命じられました。敦煌から発見された残巻を除いては現代には残っていないとされます。

●西洋

1905年、神秘主義者のセルゲイ・ニルスが紹介したロシア語版（原文はフランス語とされます）に始まる『シオンの議定書』の影響は、世界史に多大な傷跡を残すこととなります。この議定書は24の議定に分かれ、ユダヤ人秘密政府（シオン長老会）による世界征服の計画書の内容をとっていますが、これを読んだアドルフ・ヒトラーはこの逆用を思いつき、後に第二次世界大戦で行ったユダヤ人の大虐殺の思想的基底になったとされます。



●日本

1970年代、青森県五所川原市の一農家から発見された『東日流外三郡誌（つがるそとさんぐんし）』は、古代の津軽地方には大和朝廷から弾圧された民族の文明が栄えていたという画期的な内容だったことから、広く注目されました。

「古史古伝」の研究者たちからは、自分たちの説を補強する有力な史料として強く支持されましたが、一方で発見者の私信と同じ誤字が文書（写本）に見つけられたこと、明治以降に創作された用語が用いられていたこと、発見者が「天井裏で発見した」と主張していたにもかかわらず、実際の家屋には資料を保存できるスペースが存在しなかったことなどから、最近では発見者による偽作であることはほぼ間違いないとされています。

■「禁書」：最悪の刑罰



統治者による治安維持、思想対策、軍事機密の保持、風俗取締り等を目的として、法令により刊行・所蔵・閲覧等を禁止された書物のことを「禁書」といいます。禁止する方法はいろいろあり、例えば刊行前に検閲して発行禁止にする場合、刊行後に発行禁止にする場合、それまでの刊行資料すべてに法令の効力が及ぶ場合などがあります。

実際の禁書の方法としては、最も苛烈なものとして「焚書」があり、これは文字通り本を焼き払ってしまうという過激な処置です。洋の東西を問わず、権力者による禁書は後を絶ちません。

※検閲・発禁処分を表現する際に「フン書」という語を用いている書籍が近年出ていますが、「焚書」は単に検閲にかかったり発売禁止となるだけのことでなく、図書を焼いて灰燼に帰す処分を言います。

●中国

始皇帝以前の戦国時代、秦で孝公のもと辣腕をふるった商鞅（しょうおう）は、法家思想にもとづき『詩経』『書経』を焼いたとされます。これをはじめとして、秦以降の各王朝においても焚書あるいは禁書は次第に増えていきました。

中国での禁書で最も有名なのは、秦の始皇帝による「焚書（坑儒）」でしょう。始皇帝は中華統一した秦を強力な中央集権国家に作り上げたリーダーで、度量衡や貨幣、文字の統一など評価すべき政策も多くあるのですが、この「焚書坑儒」によって悪名高い暴君として名を残すことになりました。

また、清代にも『四庫全書』が編纂された際に、清朝が買上げ・借用した資料のうち、都合の悪い記事が削除・改竄され、2000点を超える書籍が禁書となっています。史料編纂を名目に、巧妙な思想統制を行おうとしていた例と言えるでしょう。



●ヨーロッパ



ドイツで1933年5月10日に多数の「非ドイツ的図書」を焼き払われた事件がありました。これらにはトーマス・マン、アルベルト・アインシュタイン、H. G. ウェルズら、有名人による著作も含まれていました。中世以来の大規模なものでした。

焚書がナチス・ドイツの強力なプロパガンダの一つになったことは間違いありませんが、この焚書を積極的に進めたのは、実はナチの党幹部ではなく、一般の学生を含む全学生の公式組織（議長がナチの学生）でした。焚書に刑された書物は販売も図書館での閲覧も禁止され、ドイツ国内では「非ドイツ的な」文化的活動は強力的に制限されるようになっていったのです。

●日本

印刷物に対する統制が本格化するのは、江戸時代に入ってからでした。鎖国に先立つ1630（寛永7）年のキリシタン追放とともに、関係書32点の輸入および所持が禁止されました。その後、1657（明暦3）年の京都での触書を経て出版の取り締まりが確立していったとされています。

近年では、第二次世界大戦前・戦中期の旧内務省による焚書が有名です。また戦後のGHQ占領期にも焚書が行われました。この二つの焚書は、禁じる資料の方向性は全く逆ですが、ともに極めて大規模な検閲と発禁処分を行った点で、日本での焚書の例として代表的なものと言えます。

なお、このGHQ占領期には、当時の命令伝達システムの不備や拡大解釈、さらには図書館員の自己規制などによって、本来なくさずに済んだ資料が大量に没収されたという残念な事実も明らかになっています。



■「奇書」と「偽書」と「禁書」の関係

「奇書」「偽書」「禁書」の存在は、相互に深く関連した形で表れることも珍しくありません。「奇書」の中には「偽書」が含まれますし、逆に「奇書」であるがゆえに「偽書」の疑いをかけられる場合もあります。また、「奇書」あるいは「偽書」は、時の統治者の権威を脅かす場合も少なくなく、そのため「禁書」の対象にもなりました。「奇書」「偽書」が辿る数奇な運命の中で最悪のものが「禁書」であるという言い方もできるでしょう。

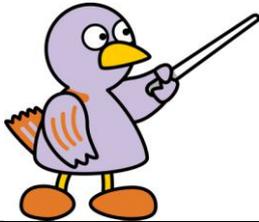
しかし皮肉なことに、そうして「禁書」にされることで、これらの図書は強く人々の関心と呼び、後世に伝えられることが多くあります。



また、「奇書」「偽書」「禁書」という位置づけや扱いは、図書に対する一種の偏見から起きると言えますが、同時に「図書」という情報流通手段が、歴史的にいかに重要視されてきたかを示すものとも言えます。「図書」がもたらす内容に対する一般の信用があったからこそ、その影響力を重視して「奇書」や「偽書」が生まれ、同時に統治者によって「禁書」という形で排除されるという関係が生まれたと考えられます。

■ より詳しく知りたい方へ

県立熊谷図書館にある今回の展示資料



～奇書・偽書・禁書～

※『書名（：副書名、巻号）』著者名 出版者 出版年【県立図書館の請求記号】
※以下に掲載した資料は、県立熊谷図書館2階ロビーで5月15日まで展示中です。
*印の資料は、館内利用のみとなります。（館外貸出はできません。）

（「奇書」について）

- ・『書祭 天』書物展望社／編 書物展望社 1939.11【020/Sh96/】
- ・『奇書！奇書！奇書の達人』歴史と文学の会／編 勉誠出版 2000.1【020.21/キシ/】
- ・『ヴォイニッチ写本の謎』ゲリー・ケネディ／著 青土社 2006.1【022.23/ウオ/】
- ・『珍書愚書』尾崎久弥／著 有光書房 1968【026.7/オ/】
- ・『世界の奇書・総解説』自由国民社 1996.4【028/セ/】
- ・『世界の奇書101冊』自由国民社 1978【028/セ/】
- ・『抱朴子』葛洪／〔著〕 平凡社 1984.1【125.2/カ/】
- ・『ノストラダムス大予言原典 諸世紀』ミカエル・ノストラダムス／著 たま出版 1975
【147.4/ノ/】
- ・『高等魔術の教理と祭儀 教理篇』エリファス・レヴィ／著 人文書院 1983.7【163/コ/】
- ・『高等魔術の教理と祭儀 祭儀篇』エリファス・レヴィ／著 人文書院 1992.11【163/コ/】
- ・『大正新修大蔵経 第21巻』大正一切経刊行会 1928【183/タ/21】
- ・『失われたムー大陸』ジェームズ・チャーチワード／著 大陸書房 1972【209.3/チ/】
- ・『ムー大陸研究原典』ジェームズ・チャーチワード／著 新人物往来社 1995.11【209.3/ム/】
- ・『偽史と奇書の日本史』佐伯修／著 現代書館 2007.4【210.088/キシ/】
- ・『奇書『先代旧事本紀』の謎をさぐる』安本美典／編 批評社 2007.5【210.3/キシ/】
- ・『よみがえる天才アルキメデス』斎藤憲／著 岩波書店 2006.3【289.3/アル724/】
- ・『山海経』高馬三良／訳 平凡社 1994.1【292.2/サ/】
- ・『東方旅行記』J. マンデヴィル／著 平凡社 1964.5【292/マ/】
- ・『聊齋志異』蒲松齡／〔原著〕 浪速書房 1967【BM923//】
- ・『世界の奇書101冊』吉田敦彦／〔ほか〕著 自由国民社 1978.12【R020.4/セ/】*
- ・『東洋の奇書55冊』自由国民社 1980.7【R020.4/ト/】*
- ・『日本の奇書77冊』自由国民社 1980.7【R020.4/ニ/】*
- ・『世界の奇書・総解説』自由国民社 1990.9【R028/セ/】*
- ・『世界の奇書・総解説』自由国民社 1994.11【R028/セ/】*
- ・『世界の奇書』船戸英夫／他著 自由国民社 1984.9【R028/F89/】*
- ・『世界の奇書・総解説』自由国民社 1992.11【R028/Se22/】*

- ・『はこやのひめこと はしめのまき』黒沢翁満／著 花の園の主人 1876【ア SA913/ク/1】*
- ・『はこやのひめこと 後篇』黒沢翁満／著 花の園の主人 1876【ア SA913/ク/2】*
- ・『江戸の奇書藐姑射秘言』黒沢翁満／述著 大陸書房 1981.6【ア SA913/ク/】*
- ・『藐姑射秘言』黒沢翁満／著 作品社 1952【ア SA913/ク/】*
- ・『山海経』郭璞／注 浙江書局 1877【カ 470/サ/】*
- ・「日本奇書偽書異端書大鑑」『歴史読本／別冊』19(14) 新人物往来社 1994.4【雑誌】*

（「偽書」について）

- ・『日本古典偽書叢刊 第1巻』現代思潮新社 2005.1【081/ニホ/1】
- ・『日本古典偽書叢刊 第2巻』現代思潮新社 2004.8【081/ニホ/2】
- ・『日本古典偽書叢刊 第3巻』現代思潮新社 2004.3【081/ニホ/3】
- ・『神道大系 古典編8』神道大系編纂会 1980【170.8/シ/】
- ・『完訳上つ記 上巻』吉田八郎／訳著 国政記者会横浜特別室 1991.3
【171/Y86/1】
- ・『完訳上つ記 下巻』吉田八郎／訳著 国政記者会横浜特別室 1991.3【171/Y86/2】
- ・『偽書の世界』佐藤弘夫／著 講談社 2002.6【182.1/キシ/】
- ・『偽文書学入門』久野俊彦／編 柏書房 2004.5【210.029/キフ/】
- ・『郷土史と近代日本』由谷裕哉／編著 角川学芸出版 2010.3【210.04/キヨ/】
- ・『古史古伝大系』吾郷清彦／編 歴史と現代社 1983.7【210.3/ア/】
- ・『先代旧事本紀の研究〔1〕校本の部』鎌田純一／著 吉川弘文館 1970【210.3/カ/】
- ・『九鬼文書の研究』三浦一郎／著 八幡書店 1986【210.3/ク/】
- ・『新論日本古代史』田中勝也／著 大和書房 1995.9【210.3/シ/】
- ・『超古代王朝の発見』鈴木貞一／著 秋田書店 1973.7【210.3/ス/】
- ・『偽書考』田中勝也／著 桃源社 1980.2【210.3/タ/】
- ・『「超図解」竹内文書1』高坂和導／編著 徳間書店 1995.3【210.3/チ/1】
- ・『「超図解」竹内文書2』高坂和導／著 徳間書店 1995.11【210.3/チ/2】
- ・『超古代史の検証』上杉滋／著 柳七郎 1996.5【210.3/チヨ/】
- ・『謎の神代文字』佐治 芳彦／著 徳間書店 1981【210.3/ナ/】
- ・『謎の竹内文書』佐治芳彦／著 徳間書店 1979.6【210.3/ナ/】
- ・『日本*超古代史の謎に挑む』柞木田竜善／著 風涛社 1984.12【210.3/ニ/】
- ・『日本超古代秘史研究原典』吾郷清彦／著 新人物往来社 1997.3【210.3/ニ/】
- ・『日本超古代文明のすべて』佐治芳彦／ほか著 日本文芸社 1996.4【210.3/ニ/】
- ・『日本史が危ない!』原正壽／編著 全貌社 1999.9【210.3/ニホ/】
- ・『〔ホツマツタエ〕上編』池田満／編著 ホツマ刊行会 1995.8【210.3/ホ/1】
- ・『〔ほつまつたゑ 上巻〕和仁佑安聡／〔著〕 溪声社 1994.2【210.3/ホツ/1】
- ・『〔ほつまつたゑ 下巻〕和仁佑安聡／〔著〕 溪声社 1994.2【210.3/ホツ/2】
- ・『東日流外三郡誌の原風景』佐治芳彦／著 新人物往来社 1987.8【210.3/Sa26/】
- ・『謎の上記（うえつふみ）』佐治芳彦／著 徳間書店 1987.2【210.3/Sa26/】
- ・『日本古代文書の謎』鈴木貞一／著 大陸書房 1983【210.3/Su96/】
- ・『偽書『武功夜話』の研究』藤本正行／著 洋泉社 2002.4【210.47/キシ/】
- ・『「武功夜話」異聞』勝村公／著 批評社 2008.8【210.47/フコ/】
- ・『武功夜話 第1巻』〔吉田孫四郎雄〔カネ〕／編纂〕新人物往来社 1987.2【210.48/Y86/1】
- ・『武功夜話 第2巻』〔吉田孫四郎雄〔カネ〕／編纂〕新人物往来社 1987.3【210.48/Y86/2】
- ・『武功夜話 第3巻』〔吉田孫四郎雄〔カネ〕／編纂〕新人物往来社 1987.4【210.48/Y86/3】
- ・『武功夜話 第4巻』〔吉田孫四郎雄〔カネ〕／編纂〕新人物往来社 1987.5【210.48/Y86/4】
- ・『武功夜話 補巻』〔吉田孫四郎雄〔カネ〕／編纂〕新人物往来社 1988.3【210.48/Y86/5】
- ・『偽書「東日流外三郡誌」事件』斉藤光政／著 新人物往来社 2006.12【212.1/キシ/】



- ・『東日流外三郡誌「偽書」の証明』安本美典／編 広濟堂出版 1994.1【212.1/ツ/】
- ・『東日流外三郡誌 第1巻』小館衷三, 藤本光幸／編 北方新社 1984.3【212.1/ツ/1】
- ・『東日流外三郡誌 第2巻』小館衷三, 藤本光幸／編 北方新社 1986.2【212.1/ツ/2】
- ・『東日流外三郡誌 第3巻』小館衷三, 藤本光幸／編 北方新社 1984.11【212.1/ツ/3】
- ・『東日流外三郡誌 第4巻』小館衷三, 藤本光幸／編 北方新社 1985.3【212.1/ツ/4】
- ・『東日流外三郡誌 第5巻』小館衷三, 藤本光幸／編 北方新社 1985.9【212.1/ツ/5】
- ・『東日流外三郡誌 第6巻』小館衷三, 藤本光幸／編 北方新社 1985.12【212.1/ツ/6】
- ・『東日流外三郡誌 補巻』小館衷三, 藤本光幸／編 北方新社 1986.12【212.1/ツ/7】
- ・『津軽発『東日流外三郡誌』騒動』原田実／編 批評社 2000.12【212.1/ツカ/】
- ・『桑原隲蔵全集 第1巻』桑原隲蔵／著 岩波書店 1968.2【222/ク/】
- ・『謎の九鬼文書』佐治芳彦／著 徳間書店 1984.2【BM20//】
- ・『日本超古代王朝の謎』鈴木旭／著 日本文芸社 1990.9【BM20//】
- ・『ユダヤ人とクレムリン』永淵一郎／著 新人物往来社 1987.2【BM30//】
- ・「「古史古伝」論争」『歴史読本／別冊』18(21) 新人物往来社 1993.8【雑誌】*

（「禁書」について）

- ・『焚書夜話』大類雅敏／著 栄光出版社 1981.4【020.4/フ/】
- ・『筆禍史 改訂増補』宮武外骨／著 崙書房 1974【021.6/ミ/】
- ・『出版警察関係資料集成 第1巻』内務省警保局／編 不二出版 1986.4【021.8/シ/】
- ・『江戸の禁書（〈江戸〉選書6）』今田洋三／著 吉川弘文館 1981.12【023.1/エ/】
- ・『活字のエロ事師たち』城市郎／著 沖積舎 1989.12【023.1/カ/】
- ・『猥褻出版の歴史』長谷川卓也／著 三一書房 1978.4【023.1/ワ/】
- ・『禁じられたベストセラー』ロバート・ダーントン／著 新曜社 2005.2【023.35/キン/】
- ・『中国の禁書』章培恒／主編 新潮社 1994.9【023.8/チ/】
- ・『百禁書』ニコラス・J. キャロライズ／著 青山出版社 2004.2【023.8/ヒヤ/】
- ・『発禁本曼陀羅』城市郎／著 河出書房新社 1993.9【023.8/J56/】
- ・『占領期雑誌資料大系 大衆文化編 第4巻』山本武利／編 岩波書店 2009.4【051.6/セン/】
- ・『中国古典新書〔17〕漢書芸文誌』宇野精一, 鈴木由次郎／編 明德出版社 1968【082/チ/17】
- ・『中国古典新書〔32〕小学』宇野精一, 鈴木由次郎／編 明德出版社 1969【082/チ/32】
- ・『中国古典新書〔72〕易経』宇野精一, 鈴木由次郎／編 明德出版社 1974【082/チ/72】
- ・『中国古典新書〔75〕書経』宇野精一, 鈴木由次郎／編 明德出版社 1974【082/チ/75】
- ・『中国古典新書〔90〕孝経』林秀一／著 明德出版社 1979.10【082/チ/90】
- ・『中国古典新書〔97〕詩経』石川忠久／著 明德出版社 1984.4【082/チ/97】
- ・『論語講義』経学研究会／編 光風館書店 1922.10【123.83/ロン/】
- ・『諸子百家〈再発見〉』浅野裕一／編 岩波書店 2004.8【124/シヨ/】
- ・『1億人の昭和史10』毎日新聞社 1977.1【210.7/Ma31/】
- ・『図説古代中国5000年の旅 韓中民／著 日本放送出版協会 1987.2【222.02/Ka43/】
- ・『秦の始皇帝』鶴間和幸／著 吉川弘文館 2001.12【222.041/シン/】
- ・『第三帝国の野望』毎日新聞社 1999.6【234.074/タイ/】
- ・『第三帝国の興亡2』ウィリアム・L. シャイラー／著 東京創元社 2008.6【234.074/タイ/2】
- ・『20世紀の権力とメディア』平井正／著 雄山閣出版 1995.1【234/ニ/】
- ・『秦の始皇帝』中国通信社, 東方書店／共編 中国通信社／訳 東方書店 1975【289.2/シ/】
- ・『興亡夢の如し』銭寧／著 東洋書院 2002.10【923/コウ/】
- ・『魯迅全集 第5巻』魯迅／著 人民文学出版社 2005.11【928.78/Lux/】
- ・『発禁本』城市郎／著 福武書店 1991.7【B023.8/J56/】
- ・『続・発禁本』城市郎／著 福武書店 1991.8【B023.8/ハ/】
- ・『発禁作品集』小田切秀雄／編 北辰堂 1956【BM913/オタ/】

- ・『始皇帝 上』伴野朗／著 徳間書店 1995.2 【BM913/トモ/】
- ・『始皇帝 下』伴野朗／著 徳間書店 1995.2 【BM913/トモ/】
- ・『メリーランド大学所蔵プランゲ文庫展記念図録』ニチマイ 2000.8 【D210.76/メリ/】*
- ・『日本書目大成 第4巻』長沢規矩也, 阿部隆一／編 汲古書院 1979 【R020.3/ニ/】*
- ・『出版警察関係資料解説・総目次』由井正臣／他共著 不二出版 1983.1 【R021.8/シ/】*
- ・『占領軍検閲雑誌目録・解題』奥泉栄三郎／編 雄松堂書店 1982.11 【R027.5/オ/】*
- ・『国立国会図書館所蔵発禁図書目録』国立国会図書館収集整理部／編 国立国会図書館 1980.3
【R027.6/コ/】*
- ・『ゴードン W. プランゲ文庫教育図書目録』野田朱美／編 文生書院 2007.1
【R027.6/コト/】*
- ・『禁止単行本目録2 (発禁本関係資料集成 第2輯)』内務省警保局／編 湖北社 1976.10
【R027.6/ナ/】*
- ・『禁止単行本目録3 (発禁本関係資料集成 第3輯)』内務省警保局／編 湖北社 1977
【R027.6/ナ/】*
- ・『単行本処分日誌 (発禁本関係資料集成 第4集)』内務省警保局／著 湖北社 1977
【R027.6/ナ/】*
- ・『連合国軍総司令部指令没収指定図書総目録』文部省社会教育局／編 今日の話社 1982.4
【R027.6/レ/】*
- ・『連合国軍総司令部から没収を命ぜられた宣伝用刊行物総目録』文部省社会教育局 [19—]
【R027/Mo31/】*
- ・『禁止単行本目録 (発禁本関係資料集成 第1輯)』内務省警保局／編 湖北社 1976.7
【R027/N28/】*
- ・『日本の艶本・珍書・総解説』佐藤要人／他〔著〕 自由国民社 1992.11 【R910.2/ニ/】*
- ・『補標史記評林20』凌稚隆／輯校, 李光縉／増補 有井範平／補標 報告社 1883
【カ222/リ/20】*
- ・『補標史記評林24』凌稚隆／輯校, 李光縉／増補 有井範平／補標 報告社 1883
【カ222/リ/24】*

※上記以外にも、県立図書館では奇書・偽書・禁書に関する資料を所蔵しております。
お探しの資料がございましたら、お気軽にお問い合わせください。

